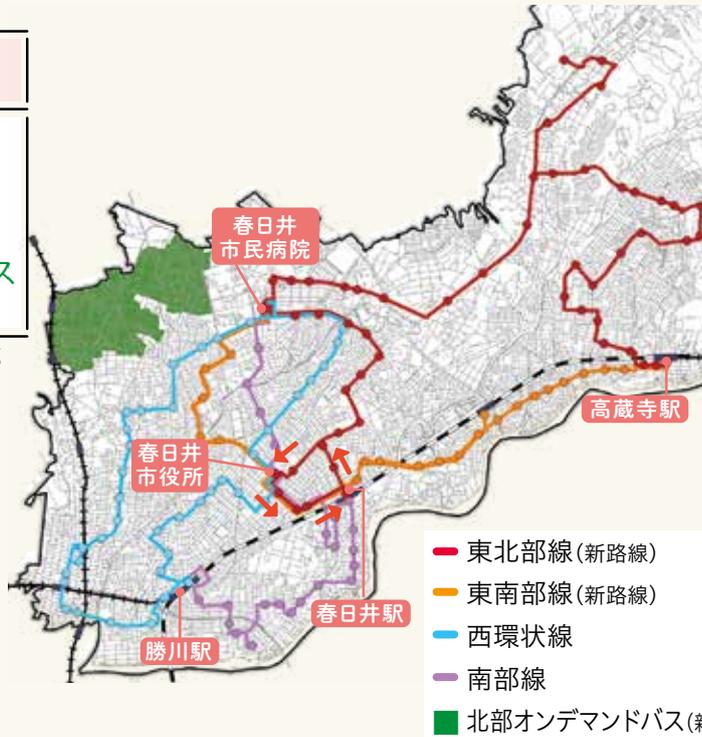


10月1日(金)から! かすがいシティバスが変わります!

主な変更路線

現行路線	新路線
東環状線	→ 東北部線 → 東南部線
北部線	→ 北部オンデマンドバス

※西環状線・南部線は現行路線から一部ルートを変更します

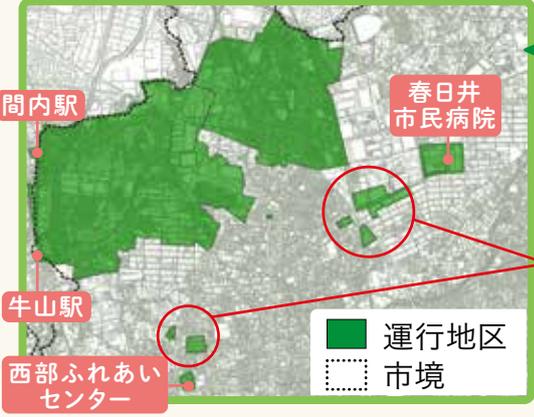


- ### 主な変更点
- 東環状線を分割
 - 路線バスなどとの重複区間を解消
 - 北部線をワゴン車によるオンデマンドバスに変更
- 北部オンデマンドバス 運行開始日**

7月9日(金)から無料運行、8月2日(月)から有料運行を予定
※北部線は9月末に廃止

北部オンデマンドバスは平日午前7時30分～午後3時30分の間で運行

乗り方教室
7月9日～30日で地区の町内会や老人クラブなどを対象に、希望に応じて乗り方教室を開催(平日午前9時～午後2時)。運行エリア内で希望する団体は、問い合わせください。

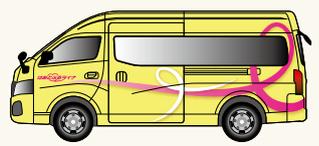


乗降ポイント間ならどこでも、電話やインターネットから予約して乗り降りできるコミュニティバスです。

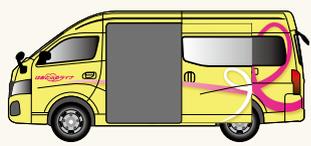
その他にはスーパーや病院など

オンデマンドバスとは

コンセプト
人と人、人と町を繋ぎ届ける新たなバス
「地域と寄り添うおもてなしの心」
最優秀作品(名古屋造形大学 小林加奈さん)



鮮やかなピンクのリボンは道を表しており、バスが町の中を進む様子を表現。白のリボンは利用者を表し、人が町の方へ集まっていくよう、白リボンの端をピンクのラインへのせています。



扉が開くと二つのリボンが結ばれます。これは人と町との繋がり、そして、はあとふるライナーの最大の特徴である人々に寄り添い支える姿をプレゼントに見立てています。

使用車両のデザイン
北部オンデマンドバスの車両デザインは、市と連携協定を締結している名古屋造形大学の学生が作成したデザインの中から決定しました。

問い合わせ 都市政策課 ☎ 851-6051

定期券の新規発行

昨年度好評をいただきました、シティバス定期券「はあとふるパス」の本格的な運用を10月から開始します。

ポイント

- ✓ 利用期間は任意の1か月を設定できます。
 - ✓ 利用開始日の2週間前から購入することができます。
- ※北部オンデマンドバスについては、定期券の対象外となります。

乗継券の新規発行

シティバス路線の結節点である、高蔵寺駅、春日井駅、勝川駅、春日井市民病院、春日井市役所において、往路で乗車した路線と異なる路線に乗り継ぐ際、降車時に運転手に申し出ることによって「乗継券」を10月から交付します。

乗換後、降車時に運転手へ「乗継券」を渡すことで、無料で利用することが出来ます。

※北部オンデマンドバスの乗継のみ、8月2日(月)から運用します。

ニュータウン地区においてAIオンデマンド乗合サービス実証実験を行います

AIオンデマンドとは、AIを活用することで、複数の利用者が最大限効率的に移動することができるサービスです。到着時間が前後する可能性はあるものの、通常のタクシー運賃の約5割引き(初乗り400円)かつ、運行範囲内であれば好きな場所から好きな場所に移動ができます。

運行期間 令和4年3月31日(木)まで ※土日・祝日、12/29~1/3は運休

運行時間 午前8時30分~午後2時

◆詳しくは市ホームページをご覧ください



▼利用登録や配車依頼などに関する問い合わせはこちら

☎ 090-2210-9750 受付時間 8:30~13:30(運行日のみ)

登録サイト 24時間受付中



タクシー車両で運行!



※この電話は、乗合サービス実証実験予約オペレーターにつながります。

お知らせ

市ホームページの他にも、SNSなどで情報発信を予定しています。この機会にぜひ登録してください。

Twitter



LINE



春日井 創想



2021

コロナ禍における
スポーツの大会

市長 伊藤 太

新型コロナウイルス感染症の影響により、文化や芸術も同様ですが、1年以上の間、地域の大会を始め、全国規模のスポーツ大会が中止となったり規模を縮小したりして行われています。そこには、主催者や参加者の苦労や悩み、残念な気持ちなど計り知れないものがあります。

今年の3月、春日井市で第30回全国高等学校剣道選抜大会が行われ、各都道府県の予選を勝ち抜いた男女各64校の高校生が、全国大会の舞台で日本の栄誉を目指しました。昨年は、この選抜大会もインターハイも中止となり、当時の3年生は青春をかけた全国大会を経験することなく卒業していきました。まさに一生に一度の夢がコロナによって奪われたのです。

今年、「何としても開催して高校生に参加してもらいたい」「感染者は絶対に出さない」「いつでも中止する」という主催者も教員も生徒も、全ての関係者が大きな制約を受け入れ、同じ強い思いを共有した大会でした。

大会が終わり2週間後に、まさに総責任者として陣頭指揮をとられた高校の先生から電話を頂きました。「2週間経ちました。誰も感染者はありません！」全員の思いが、この電話、この言葉に象徴されていると感じました。

6月15日現在、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催について、IOCを始めとする主催者や選手、感染症の専門家、マスコミ、国民、それぞれの立場で議論されています。

変異株による感染拡大が危惧される中、33もの競技に世界中から関係者が集まるオリンピックや、パラリンピックと、国内の高校の大会とでは全てにおいて全く違いますが、開催する意義や感染しない、感染させない、安全安心な大会という面では、全く一緒だと思います。

中止、延期、開催。いずれにしても出来るだけ多くの人が同じ思いになれる、そんな判断がなされることを期待しています。